

通信小海

偶像が倒れた

牧師 水草修治

バブル崩壊後、自殺者数が二万人から激増し、ここ五年間は三万人を超えている。特に中高年の「勤務問題」を苦にした自殺が増え、生命保険会社は自殺には保険金を支払わないことを検討しているという。

日本が先の戦争に破れた時、現人神としての天皇という偶像が音を立てて倒れた。明治以降、特に大日本帝国憲法・教育勅語以降、多くの日本人は天皇に身も心も家族もささげ仕えることに、自分の存在意義を見出していた。しかし、偶像はやがてかならず倒れる。現人神天皇にも、やがて倒れる日が来たのは

「今月の御言葉」この天地は滅びます。しかし、わたしのことは決して滅びることがありません。」
マルコ福音書十三章三十一節

日本同盟基督教団 小海キリスト教会 牧師 水草修治
会堂・牧師館 長野県南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七
〒三八四一一 二二 二六七九二四七七六
郵便振替 五三 六一六八三

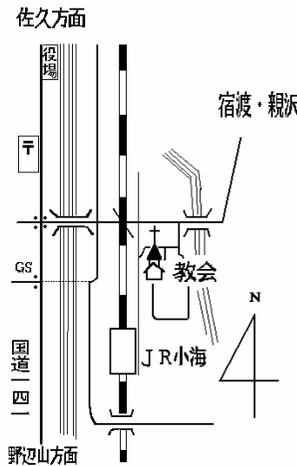
当然であった。

戦後、しばらくの混乱期の後に、高度成長期がやってきた。今度、現人神天皇に代わって登場したのは「会社」という名の偶像であった。サラリーマンたちは午前六時には出勤、夜中一時に帰宅するような生活をし、子どもがお父さんの顔を忘れてしまうような家庭が東京ではごくふつうといった状態だったし、今もって、人件費削減のためにもつと状況は悪化している職場もある。

先日、スウェーデンの学校で日本の右のような状況についてお話をする機会があったが、かの国の人々はみな顔を見合わせてあざれたという表情をしていた。私たち日本人は井の中の蛙で「みんながそうなんだから当たり前だ。仕方がない。」と思っているが、客観的に見れば、日本の社会はたしかに異常なのである。

それでもバブル崩壊前は、「神」である会

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時四五分

朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後七時半から八時半

水曜日 祈り会 午前十時半と午後七時半

*海尻・川上・野辺山で毎月家庭集会あり。

*個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

社は、終身雇用を約束し、社員という名の信者の人生を最期まで面倒見ていた。だから社員は人生のすべてを会社にささげる意味もあつた。しかし、偶像是必ず倒れる。バブルが崩壊し、「会社」という名の偶像是音を立てて倒れた。「会社」が、なんと信者いや社員をばっさばっさとリストラし始めたのである。「会社」に見捨てられた社員たちは、生活と心の支えを失ってしまった。そして、そういう父親世代を見ている若者たちが、会社に献身することのむなしさを感じて就職することに二の足を踏んでいる。

たしかに悲惨なことである。しかし、そもそも神ならぬものを神としてきたことが大きなあやまちだったのである。目をさまさなければならぬ。そして、たとえ天地が滅んでも信頼に足るお方にこそ、自分の人生を委ねるべきなのである。主イエスは言われた。

「この天地は滅びます。しかし、わたしのことは決して滅びることがありません。」
マルコ福音書十三章三十一節

「野宿者が集う山谷に行つて」

(2005年01月14日付 信濃毎日新聞朝刊)

「建設標」より抄録

年末、私の村の人たち十三人で、東京・山谷地区の野宿者への炊き出しの手伝いに行った。村の中で呼び掛けて集めた毛布約百三十枚を持つて。山谷は私が想像した東京とは全く違う景色だった。野宿者が使った毛布や段ボールが、あちこちで目に付いた。炊き出しの場所へ行くと、野宿者たちが炊き出しの準備をしていた。ボランティアの人たちがすべての仕事をこなすものだと思っていたので、彼らのテキパキとした働きぶりに驚いた。日帰りの短時間ボランティアではあつたが、リストラなどによって野宿せざるを得なくなった人たちの実態を知ることができた。

わりばし 毛布 未使用切手を!

山谷農場事務局(藤田 寛)

電話090・1436・6334

ファクス042・786・2088

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

〒振替 一四・四五三七九六 山谷農場

福音指圧教室に

どうぞ



肩こりを腕から治す方法とか、頭痛は首筋と後頭部で直すとか、腰痛はおなかから治すとか、先日は冷え性を足から治すとか、ずいぶんいろいろと学んできました。実際に役に立ちます。頭痛薬ばかり飲んでいると胃が悪くなりますしね。押せば直るんですから便利です。あなたもご参加ください。

日時 二月二十日(日)

午後二時から三時半

場所:小海キリスト教会会堂

持ち物:バスタオル、タオル、くつした
無料です

単純なこと

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」

ヨハネ福音書一章十二節

この聖書のことばは、救いのための真理を単純に告げています。それは、「この方」イエス・キリストを受け入れることです。神に背を向けてきた自分の罪を認めイエスを信じるならば、あなたも救われます。なんと単純なことでしょう。神が用意してくださった救いの道は単純なのです。

ところで、神様がご用意くださった救いとはなんでしょう。ここを見ると、それは神の子どもとされる特権を受けることであるということが出来ます。人間は生まれながらには、神との関係においては、みなしごのような状態なのですが、イエス様

を受け入れるならば、神の子どもにしていたことができず、神の子どもになると、創造主である神は、親が子どもを愛し守り育てるような格別の愛の対象としてあなたを導いてくださるのです。

ある夫婦が孤児院を訪ね、みなし子の一人を我が子として選び、入籍し、愛し、慈しみ、育てていくように、神は私たちのことを愛して守り導いてくださるのです。

イエス様を信じるならば、あなたも神様の子どもですから、創造主である神様を「おとうさん」と心から呼ぶことができるようになります。「おとうさん」と呼んで、感謝の生活をする事ができるようになります。また、「おとうさん」と呼んで、心の面でも物質的な面でもいろいろなお願いをすることもできるようになります。

また、イエス様を信じるならば、創造主はあなたを格別の愛の対象として、聖書のみことばをもって導いてくださるようになります。今までただの活字にすぎなかった聖書が

自分に語られている父からの愛と知恵に満ちた手紙として理解できるようになります。

また、イエス様を信じて創造主を「おとうさん」と呼べるようになります、いろいろな心配事であらざる必要がなくなります。なぜなら、すべてのことをご存知であり、すべてのことを導いてくださる創造主が、父としての愛をもってあなたの人生に「ご配慮くださるからです。たとえ今、辛く理解できない出来事であっても、天の父はすべてのことを働かせて、最終的に益に変えてくださる、そういうお方なのです。

「あなたがたの思い煩いをいっさい神に委ねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。」第一ペテロ五章七節

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画にしたがって召された人々のためには、神はすべてのことを働かせて益としてくださることを私たちは知っています。」

ローマ書八章二十八節

「幸福な家庭」

ものには言い方が ある

「くそばばあ。おまえなんか、大嫌いだ！」こんなことを子どもに言われたらどうしますか。子どもは、自分の感情をコントロールできなくて、時としてこんな暴言を吐くこともあるでしょう。親としては、どう対応したらよいのでしょうか。

大事なことの一つは、子どもにも怒る権利があるということです。問答無用で鉄拳を飛ばして、感情を押し殺させてばかりいると、子どもの心が変になってしまします。子どもも親から理不尽なあつかいを受けたら怒る権利があるのです。その権利は認めてやるべきです。

けれども、注意しなければいけないのは、その言い方です。表現です。神が「敬え」と命じられた親を、子どもがくそばば

あと罵ることは、神のみこころをそこねます。その間違いは正してやる必要があります。

そこで、まず親の側としては、売り言葉に買いことばで無礼の罪を犯さぬように、注意します。そして、しばらく子どもの高ぶった感情がおさまるのを待ちます。その後で、次のように言ってあげられると良いですね。

「さっきはものすごく怒っていたねえ。お前がなぜそんなに怒っているのか、説明してごらん。聞いてあげるから。でも、『くそばばあ。大嫌いだ』なんて言われたら、おかあさん、悲しいよ。もつとほかに気持ちの表し方があるだろう。」

神様はたしかに親に対して、子どもを指導するための権威をお与えになっています。けれども、それは子どもを自分の思いのままに押さえつけるための権威ではなく、子どもが知性も感情も意志もバランスよく育っていくように導くために与えられた権威です。ですから、子どもは基本的に自分の感情を表現し、行動することが許されています。それを無理や

りに束縛することはよくないことです。成長が妨げられてしまいますから。

けれども、子どもに親の権威をあなどらせてはいけません。親を口汚く罵ることは、親を立てた神をあなどることですから。「くそばばあ」とか「くそ親父」などと言つことを許せば、いずれ、その子自身が不幸になってしまいます。親を敬えないことは、不幸の始まりだからです。親を敬えない人は、社会に出ても人を尊敬するのが難しくなるのです。

ですから、もし子どもが不適切な暴言を吐いたならば、親としてはまずその感情を受け止めながら、その表現については正してやることが大事です。

とはいえ、親自身が子どもの感情を受け止める余裕がまるでないとしたら、適切な対応はできないでしょう。私たち親自身が、自分のたましいの親である創造主である神様の前に来て、その傷ついた心をいやしていただき、余裕の無い狭い心を広やかな心につくりかえていただかねばなりませんね。子育てをしながら、自分の限界を知り、親自身が神様によって成長させていただくことの必要に目ざめる、これが大切なことなのです。